



## 運営班



清野 風斗  
Futo Seino



樋渡 樹  
Tatsuki Hiwatashi



波多 夏希  
Natsuki Hata

- 目標** [1]FabLab 函館βの運営方法の確立  
[2]FabLab 函館βの知名度向上

## 活動内容

### 夏季ワークショップの運営 [1,2]

**手段** 市内運営に向けた準備として、夏に行われたオープンキャンパスや、はこだて国際科学祭のワークショップの企画をした。



**結果** オープンキャンパスは 27 人、はこだて国際科学祭は 48 人の参加者がいた。これらのワークショップの体験や、反省点からワークショップの企画などのノウハウを学んだ。ワークショップで学んだノウハウは、10 月から行っているみらい館での運営や毎月に行われているワークショップでの運営の企画に役立っている。

**考察** ワークショップの所要時間や、ワークショップ機材の詳細の説明などの情報公開が十分ではなかった。

### はこだてみらい館の活動 [1,2]

**手段** はこだてみらい館での週に 1 度の運営、月に 2 回のワークショップの企画をした。FaceBook で活動内容やワークショップ案内などの広報活動をした。はこだてみらい館で使われるデバイスについてヒアリングをしてニーズを汲んだ。



**結果** はこだてみらい館での運営により、FabLab 函館βの存在を広めることができた。FaceBook での広報活動では投稿した FaceBook ページ（全 15 回）の平均リーチ数は約 150 回で最多リーチ数 625 回となり、函館以外の人に知ってもらうことができた。はこだてみらい館で使われるデバイスの提案をしたことにより、FabLab 函館βのスキルを売り込むことができた。

**考察** みらい館での運営では、来た人ができることのレパートリーが少なかった。デジタル工作機器を初めて触る人にもすぐできるメニューを増やすべきだった。また、広報活動する期間が十分ではなく拡散できなかった。

### 運営 / ワークショップマニュアルの作成 [1]

**手段** 市内での運営を中長期的に続けるための運営マニュアルの作成した。また、他の人でも再現できるようにワークショップのマニュアルを作成した。



**考察** このマニュアルより、FabLab 函館のメンバーだけでなく、みらい館のスタッフでも 3D プリンターの基本的な使い方を知ることができ、私たちがいない時でも FabLab を運用することを目指す。運営 / ワークショップマニュアルは作ったが、私たちがいない時の FabLab 運営まではできなかった。

## 今後の課題

- ・今年度は learn/make/share の中で情報共有 (share) がまだ十分ではなかったため、続々と情報の共有及び公開することによって FabLab 函館をアピールする。
- ・活発に渉外活動を行っていくことによって我々 FabLab 函館βの、Fablab Japan network への参加を目指す。
- ・作品を share するだけでなく、ワークショップのやり方も share していき、FabLab 函館のウェブサイトを充実させることで FabLab 函館の存在感を高めていきたい。